

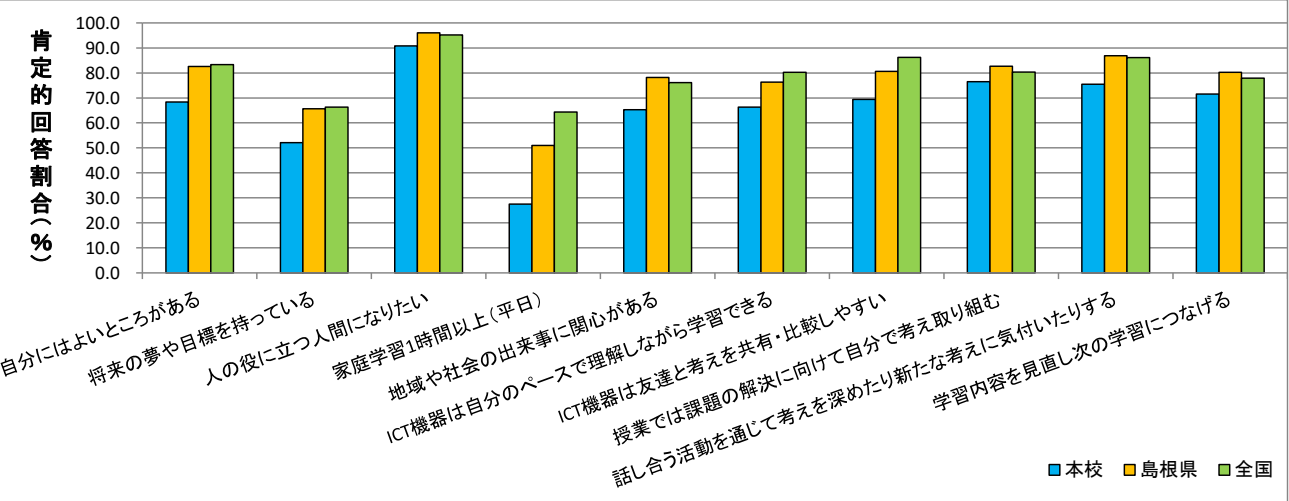
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○短歌の鑑賞や行書の特徴について理解できている生徒が多い。 ●物語の表現の効果について説明したり、説明的な文章の要約をしたりする記述問題が苦手な生徒が多い。	・授業の中で自分の考えを書く機会を多く設け、記述力を付けていく。
数学	○「データの活用」領域において、簡単な場合について、確率を求めることができる生徒が多い。 ●「関数」領域において、グラフについて事象に即して解釈することが苦手な生徒が多い。	・授業の中で単純に問題を解いて終わるだけでなく、なぜそうなったのかを考える場面や説明する場面を意図的に設定していく。 ・学年相応の課題処理を学ばせながら、スパイラルな学びを通して課題を解決する系統性のある指導をする。

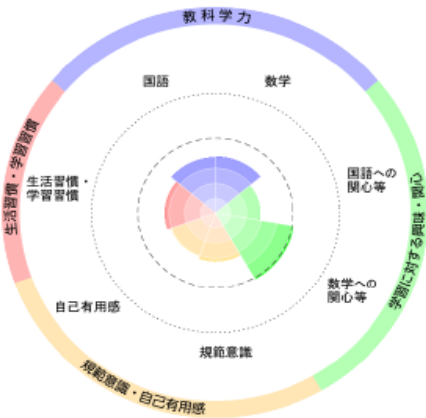
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○友達関係に満足している生徒が比較的多く、日々の関わりを通して互いに気遣う雰囲気が醸成されている。 ●自己肯定感は比較的高いが、地域や人と関わること、また、家庭学習をはじめ探究心をもって学びを深めたりすることなど、自分の世界を広げることに消極的である。	・各教科、領域での学習において、ICTを効果的に活用して生徒各自の意見や考えを交換する場の設定を増やす。 ・地域の「ひと・もの・こと」を生かした学習の機会を増やす。 ・図書館を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。

(3)質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・タブレットに入れたアプリを活用して、
 - ①テスト前の学習などの「まなびの時間」を計画させる
 - ②計画は学習時間や学習内容を具体化させる
 - ③計画に従って実践するよう働きかける
 - ④実践を振り返らせ、次の計画に役立たせるよう評価する
 - ⑤学期末に保護者と情報を共有し、家庭と学校が連携することで、短期と中期の視点をもって生徒支援する。
- ・生徒同士を繋げるアプリを使った授業展開を全教科で進め、自分の考えを深めるために他者の考えを参考にし、類似点と相違点に着目して話し合える環境を整える。

【受検者数】

98 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。